

## タイトルとメッセージをお知らせいたします

タイトル	メッセージ
1.いしだたみの光と影	ポルトガル、ヴィラヴィソーサはスペイン国境近くの小さな街。この名前は「樹木の茂った街」という意味で400年以上も前に天正遣欧使節の少年たちも滞在したという。この中に猫が2匹いるのがわかりますか？ 2013-08-16
2.静寂の村のいしだたみ	ポルトガル、モンサラージュは小高い丘上で時の流れから取り残された静かな村だ。静寂の音（The sound of silence）が確かに聞こえた。 2015-11-05
3.導かれる・絨毯のように	木漏れ日の桂敷きは、一瞬の光を湛え輝く。鎌倉時代へと誘われていく。今はひっそりと佇む寿福寺であるが、鎌倉五山の一つ、建長寺・円覚寺に継ぐ。横の小道を進んでいくと、やぐらには北条政子が眠る。（鎌倉寿福寺）
4~6導かれる・季節の色に<3枚組写真> ①みどりのいしだたみ②レッドカーペットに配された石 ③赤い葉の縁どり	みどり輝く寿福寺も、季節が変わるとしっとり秋色に包まれていく。秋にはレッドカーペットの上に石が配されるかのよう。赤い葉は縁どりとなって色を添えている。（鎌倉寿福寺）
7.驟雨に泳ぐ鴟尾	初夏の唐招提寺で驟雨に見舞われた。滝のような雨音、普段は黒鉄色の金堂の葺も白く煙っている。境内には人っ子一人いない。そんな中、鴟尾が元気に泳いでいる。雨は20分ほどで止み、静寂が戻った。
8.早暁の一枚	奈良での常宿は猿沢池近くのビジネスホテル。早朝、例によって朝食をコンビニで買い求め、帰路に池越しの興福寺五重塔を見上げると、見事なコントラスト！ 珍しく「見たまま」の一枚を撮ることができた。
9.真昼の銀座？	「私のいしだたみ」はまさにこれまでの人生の節目での出来事、コロナ禍も大きな節目だ。緊急事態宣言下やむを得ぬ用件があり車で都心へ。正午前の銀座4丁目交差点は喧騒もなく、まるで映画のセットのような光景だった。
10.リスボンのケーブルカー	海外に嫁ぐ娘がせめてもの親孝行にと、2週間ポ一国・ブタペスト・ポルトガルに連れて行ってくれました。毎日2万歩超えの町巡り。質素ながらツアコン兼通訳兼賄い婦付きの贅沢旅となりました。
11~12シントラのムーア人の砦 <2枚組写真>	それは山の上に建つ全てが石造りの大きな城砦跡です。威圧感満載の中庭にお澄ましの猫達が。砦とマッチしていたので、ついパチリ！
13.広目天に会いたい!!（奈良 東大寺戒壇院）	10月23日、思い立ったかのように、奈良に向かう。目指すは東大寺戒壇院。石段を登り、戒壇堂内入る。正面の多宝塔の左奥から感じる刺すような視線。古美研最初の夏合宿で感じた身が引き締まるような感覚がよみがえる。 私の「いしだたみ」生活、最初の一步。
14.講堂だ!! 講堂だ!! 講堂だ!!（京都 東寺）	12月13日の「事始め」に合わせ、京都を訪ねる。京都駅から近鉄で東寺を目指す。お目当ては、講堂の群像。いつもの東大門からではなく、今回は、南大門から金堂を経由して講堂へ向かった。圧倒的な迫力のなか1時間ほどの時を過ごす。 決して外せない「京のいしだたみ」
15.富士の高嶺に降る雪も...（京都 先斗町）	現役時代は、仕事で何十回も京都に出張した。しかし、時間に追われてばかりで、古美術の「こ」の字も見余り余裕がなかった。そんな時でも、夜な夜な訪れた「先斗町」気分だけでも京を味わいたかったあの頃。 今でも外せない「京の夜のいしだたみ」
16.空のいしだたみ	未来に向かって慶雲たなびかせ...。東京オリンピックのブルーインパルス試験飛行。
17.変わらない回廊（萬福寺）	大学1年の夏合宿以来の訪問だ。当時は連れられてきたただけだが、寺内に足を一步入れた瞬間、学生時代の記憶がよみがえった。ここを間違いなく歩いた。違うのは 昼食。あの時は黄檗駅近くの喫茶店、今日は萬福寺の普茶料理。
18.中国風のお寺（萬福寺）	建物の全体を遠くから見てみると、日本のお寺です。石の並び方だって日本らしさを感じます。でも、中国風を見つけれられる不思議な空間があちこちに存在するところが好きだなと思います。あくまで個人の思いですのであしからず。